

【学校教育目標】

未来を拓く、力強く、
たくましい力を持つ児童の育成

【本年度の重点目標】 ◎ 失敗を怖れず、全力で行動する子ども

- ① 児童の実態を踏まえた丁寧な授業づくり
- ② 地域のひと・もの・ことを活かした体験的な活動の充実【ふるさと学習】
- ③ 道徳科を中心に人権意識を醸成し、特別活動や総合的な学習の時間等を通じた実践力の向上

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	自己評価を踏まえた改善策	
学校経営	学校の構想のバランス	学校の教育目標を達成するために日常の教育活動ができているか。 〈結果〉目標達成のための教育活動を日々行っている。体験的な活動を充実させていく必要がある。	2. 93	学校の教育目標を意識しながら計画的に体験活動を仕組み、実施していくことが大切だと思います。	ふるさとを愛する心を育成するために、コロナ禍で中断されていた体験的な活動を整理し、教職員に過度な負担がないように実施していく。
		校務分掌の担当として役割が果たせたか。 〈結果〉コロナ禍で中断していた教育活動の計画・提案・実施に多くの時間を要した係・部会があった。	2. 64	校務分掌の各担当の役割を明確にし、コロナ前の教育活動の在り方について再確認する必要があるように感じます。	本年度、手探りの中での徐々に再開できてきた教育活動がさらに充実していくように、教務主任を中心に校務分掌を活性化させていく。
		担任及び近接学年が協力して意図的・計画的な学級経営ができたか。 〈結果〉近接学年が一つのチームとして、情報交換を行いながら協働して学級経営を行っていた。	3. 21	高い評価です。近接学年が連携して連携して、組織的に学級経営ができていることがわかります。	若年教員が多く、行事等に関して見通しを持っていないこともあったが、本年度の実践を来年に生かし、少しずつ教師としての経験を積み重ねていく。
		学年会議等により学年の課題が共有されているか。 〈結果〉同学年会のみならず、近接学年会も定期的に行われ、課題の共有や解決策の協議を行うことができた。	3. 07	同学年や近接学年と組織的に連携して学年経営が行われていることがわかります。	来年度も、この学年・近接学年がチームとして機能していくように、まずは学年・近接同学年会の時間を確保していく。
		保護者や地域と連携した教育活動ができているか。 〈結果〉地域人材をGTとした体験的な活動やPTA親子活動等の活動ができた。	2. 71	今後も地域との連携の在り方について、小中連携しながら様々な活動を充実させていきたいと思います。	来年度から発足する学校運営協議会の中で、地域人材の有効的な活用や小中学校が連携した取組を協議し、実践していく。
		総合所見 担任としての学級経営や学年としての協働体制はできてきている。しかし、校務分掌の担当の役割を十分に果たせていないと感じている教員も多い。今年度の計画・準備・実施の経験をもとに、来年度の活動の充実を図っていく。また、来年度から発足する学校運営協議会を有効に活用し、特に地域と連携したふるさと学習を推進していく。			
		教科指導は、学力向上のために創意工夫を凝らしているか 〈結果〉「問いづくり・思考づくり・価値づくり」を意識した授業を行っているが、全校的に学力が低い。	2. 93	授業力の向上が児童の学力の向上の第一歩だと思います。全職員の授業力向上のための取組を計画的に行ってほしいと思います。	本校児童の学力実態を明らかにしながら、子どもの実態に応じた教材研究や授業づくりを行っていく。また、そのための校外研修への積極的な参加を奨励していく。
		担任として授業技術の向上・改善に努力したか 〈結果〉研究発表会を通して、授業技術は向上している。今後、幅広い教科で更なる向上を図っていく必要がある。	3. 00	若年教諭が増えてきています。教員の実態に合わせた校内研修等を行ってほしいと思います。	主題研修等を通して、一人一人の実践的な指導力の向上を図っていく。また、管理職や市教育研究所指導主事等による授業の参観を行い、指導助言を行っていく。
教育活動	確かな学力の向上				

		人権学習や道徳の時間は考えさせ、今後の行動に繋がっているか。 〈結果〉人権学習や道徳の時間が、日頃の行動に結びついて いる児童と結びついていない児童がいる。	2. 77	人権教育を通じて培われるべき資質・能 力の3つの側面の育成を、すべての教育活 動の中で育てていきましょう。	道徳、学級活動、総合的な学習の時間の特質に応じて、人 権意識の向上を図っていく。また、日々の学校生活の中で、 人権意識を高める指導を行っていく。
		学級活動や行事は、児童の主体性や自主性を生かしているか 〈結果〉体験活動を取り入れた学習が復活してきており、主 体的に学習に取り組む児童の育成に役立っている。	2. 92	生徒が主体的に取り組む場面を意 図的に仕組み、自己指導能力の育成に 繋げていきましょう。	本年度は、筑豊教育事務所の指導主事を招聘して、学級活 動についての研修を行った。それを生かして、児童が主体的 に学習に取り組む授業づくりを行っていく。
		具体的な将来像や自己存在感を持つような活動が工夫されているか 〈結果〉総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育を段階 的に行っているが、具体的な将来像が持てない児童もいる。	2. 77	小中連携したキャリア教育の計画 を立て、義務教育終了後に就労できる 力を付けていきましょう。	就労できる力を身に付けるために、キャリア・パスポート を活用しながら、児童が具体的な自分の未来像を考えていく 活動を多く設定し、それを中学校につなげていく。
		総合所見 本校児童の学力が低く、本年度は学力向上フォローアップ学校訪問が行われた。そこで指導を受けた「授業づくり」「トリプル80」「ICT活用」「家庭学習」について、職員間で課題を共有しながら、学力向上策を学校全体で組織的に進めていく。			
豊 か な 心 の 状 況 の 育 成		学級集団には、いじめを許さず、お互いに支え合う雰囲気が 育っているか 〈結果〉多くの学級が、明るく楽しい雰囲気で集団生活を送 ることができていた。	3. 08	明るく楽しい雰囲気の児童が多く、 学級集団の雰囲気も良いように感じ ます。	明るく楽しい学級になっているものの、いじめ事案もあが ってきている。「いじめ0」を目指して、学級集団づくりを継 続して行っていく。
		児童たちにお互いの人格を尊重する態度が身についているか 〈結果〉思いやりのある言動ができる児童が多いが、言葉の 粗さが目立つ児童が数人いる。	3. 00	様々な場面で言語環境を整える指導が必 要に感じます。TPO に合わせて行動がで きる児童に育成に努めてほしいと思 います。	人権学習を中心に、友達を大切にする児童、相手を尊重す る児童が多く育ってきている。来年度もこの取組を継続して いく。
		生徒は基本的な生活習慣や学習習慣が身についているか 〈結果〉基本的な生活習慣が身につけていない児童が多い。 家庭と連携した取組が必要である。	2. 77	嘉麻市の教育課題でもある、不登校 の解消には、学校と家庭が密に連携し て行く必要があると感じます。	本年度は、食育を中心に生活習慣の改善を行ってきたが、 睡眠時間やゲーム依存などの課題も多い。家庭とともに取り 組んでいく内容を学校から積極的に発信していく。
		児童は積極的に学習に参加しているか 〈結果〉多くの児童が積極的に学習に参加している。低学力 児童に対する支援を強化していく必要がある。	3. 00	学力層に応じた取組が、授業中や授業以外 にも必要に感じます。また、家庭学習の取組 も意図的・計画的に行う必要があります。	低学力児童に対する支援が不十分な面があるので、指導方 法工夫改善教員や学力アップ・課題対応教員、特学支援員等 を有効に活用していく。
		児童は学習内容に疑問や質問を出せているか 〈結果〉児童の疑問やつぶやきを積極的に取り上げているが、 それが十分にできていない児童もいる。	2. 62	自分の考えを表現できない原因を 考え、組織的に解決していく必要が大 切だと思います。	学習活動の中に、自分の考えを形成する時間、交流する時 間を位置づけ、児童の発言力・発信力を高めていく。また、日 頃から発言する習慣を身に付けさせていく。
		総合所見 道徳や学級活動、人権学習を通して、多くの子どもたちに人権意識が身につけてきている。しかし、日々の学校生活の中で、それが生かされていない場面もあるので、今後は人権が大切にされる「学習活動づくり」、「人間関係づくり」、「環境づくり」をさらに浸透させていく。			